



# Hydraulic clutch kit 取扱説明書

商品番号 02-01-022

適応車種及びフレーム番号

6Vモンキー / 6Vゴリラ : Z50J-1300017 ~ Z50J-1805927  
 12Vモンキー : Z50J-2000001 ~  
 12Vゴリラ : Z50J-2500001 ~  
 モンキー B A J A : Z50J-1700001 ~  
 モンキー R T : AB22-1007601 ~  
 モンキー R : AB22-1000017 ~

B e n l y 5 0 s : CD50-2200005 ~  
 B e n l y C L 5 0 : CD50-4000001 ~  
 B e n l y C D 5 0 : CD50-1300001 ~  
 マグナ フィフティ : AC13-1000001 ~  
 J A Z Z : AC09-1000030 ~  
 D A X : K1 ~ K4 のマニュアル4速車

- ・この度は、TAKEGAWA 商品をお買い上げ頂きまして有り難うございます。使用の際には下記事項を遵守頂きますようお願いいたします。
- ・取り付け前には、必ずキット内容をお確かめ下さい。万一お気付きの点がございましたら、お買い上げ頂いた販売店にご相談下さい。

イラスト、写真などの記載内容が本パーツと異なる場合がありますので、予めご了承下さい。

## ご使用前に必ずお読み下さい

取扱説明書に書かれている指示を無視した使用により事故や損害が発生した場合、当社は賠償の責を一切負いかねます。  
 この製品を取り付け使用し、当製品以外の部品に不具合が発生しても当製品以外の部品の保証は、どのような事柄でも一切負いかねます。  
 商品を加工等された場合や取り付けされた場合は、保証の対象にはなりません。  
 他社製品との組み合わせのお問い合わせはご遠慮下さい。  
 当製品は、上記適応車種、フレーム番号の車両専用です。他の車両には取り付け出来ませんのでご注意下さい。  
 他社製品との組み合わせのお問い合わせはご遠慮下さい。  
 当製品を使用するには、コンビネーションスイッチが別途必要です。  
 当製品の取り付けには、マフラー脱着等の作業が必要になります。上記適応車種にあったホンダ純正サービスマニュアルを必ず参照し確実に行って下さい。  
 クラッチホース、クラッチマスターシリンダーは別途ご用意下さい。  
 クラッチマスターシリンダーは、必ずピストン径が12.7mmの物を使用して下さい。  
 サイズが異なるとストロークが変化し、クラッチの切れに影響します。

## ～特徴～

クラッチリリース方式を油圧方式にする事により、クラッチ操作のレスポンスが良くなり、操作性が向上します。



### 注意

この表示を無視した取扱をすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容及び物的損害が想定される内容を、示しています。

- 一般公道では、法定速度を守り遵法運転を心掛けて下さい。  
 (法定速度を越える速度で走行した場合、運転者は道路交通法、速度超過違反で罰せられます。)
- 作業を行う際は、必ず冷間時(エンジン及びマフラーが冷えている時)に行ってください。(火傷の原因となります。)
- 走行前は、必ず各部を点検し、ネジ部等の緩みが無いかを確認し緩みがあれば規定トルクで確実に増し締めを行ってください。  
 (部品の脱落の原因となります。)
- 作業を行う際は、その作業に適した工具を用意して行って下さい。(部品の破損、ケガの原因となります。)
- 規定トルクは、必ずトルクレンチを使用し、確実に作業を行ってください。(ボルトおよびナットの破損、脱落の原因となります。)
- 製品およびフレームには、エッジや突起がある場合があります。作業時は、手を保護して作業を行ってください。(ケガの原因となります。)



### 警告

この表示を無視した取扱をすると、人が死亡したり重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- 技術、知識等が無い方は、作業を行わないで下さい。(部品破損等の原因により、転倒、事故につながる恐れがあります。)
- エンジンを回転させる場合は、必ず換気の良い場所で行ってください。密閉した様な場所では、エンジンを始動させないで下さい。  
 (一酸化炭素中毒になる恐れがあります。)
- マフラーがオイルホースに干渉しない(20~30mm以上の間隔は確保する。)ようにホースを取り回して下さい。  
 (部品破損等の原因になり、転倒、事故につながる恐れがあります。)
- 走行中、異常が発生した場合は、直ちに車両を安全な場所に停止させ、走行を中止して下さい。(事故につながる恐れがあります。)
- 作業を行う際は、水平な場所で車両を安定させ安全に作業を行ってください。(作業中に車両が倒れてケガをする恐れがあります。)
- 点検、整備は、取扱説明書又は、サービスマニュアル等の点検方法、要領を守り、正しく行って下さい。  
 (不適当な点検整備は、事故につながる恐れがあります。)
- 点検、整備等を行った際、損傷部品が見つければ、その部品を再使用する事は避け損傷部品の交換を行ってください。  
 (そのまま使用すると事故につながる恐れがあります。)
- ガソリンは、非常に引火しやすい為、一切の火気を避け燃えやすい物が回りに無い事を確認して下さい。又、気化したガソリンの滞留は、爆発等の危険性がある為、換気の良い場所で作業を行ってください。

性能アップ、デザイン変更、コストアップ等で商品および価格は予告無く変更されます。あらかじめご了承下さい。  
 クレームについては、材料および加工に欠陥があると認められた商品に対してのみ、お買い上げ後1ヶ月以内を限度として、修理又は交換させていただきます。但し、正しい取り付けや、使用方法など守られていない場合は、この限りではありません。修理又は交換等にかかる一切の費用は対象となりません。  
 この取扱説明書は、本商品を破棄されるまで保管下さいます様お願い致します。

## ～ 商 品 内 容 ～



番号	部品名	個数
1	ハイドロリッククラッチカバー	1
2	エアフリーバンジョーボルト	1
3	ブリーダーキャップ	1
4	ブリーダースクリュー	1
5	クラッチリリースピストン	1
6	ピストンカップ	1
7	クラッチリリーススプリング	1
8	リリースブラインドプラグ	1
9	Oリング	1
10	ソケットキャップスクリュー 5 × 1.2	2
11	ガスケット	1
12	六角レンチ 4 mm	1

## ～ 取 り 付 け 要 領 ～

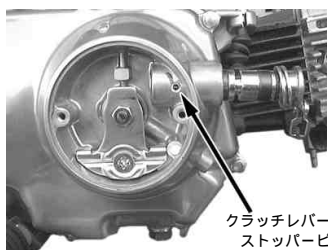
SET内容を、ご確認下さい。

### ( 取 り 付 け 準 備 )

#### ⚠ 注意

エンジン、マフラーが冷えていることを確認する事!!  
車両を安定させる事!!

- 1 車両をメンテナンススタンド等で安定させ、ウインカーホーンスイッチASSYの結線と、クラッチワイヤーを外し、ウインカーホーンスイッチASSYをLステアリングハンドルレバーごと取り外したらクラッチワイヤーを抜き取ります。
- 2 本のおバールスクリューを外し、クラッチカバーを取り外します。  
クラッチレバーSTOPパーピンを抜き取り、クラッチレバーCOMPをクラッチレバースプリングと一緒に取り外します。  
クラッチレバーSTOPパーピンは再利用しますのでご注意ください。  
STDマフラー、UPマフラーをご使用の場合は、マフラーを外さないとクラッチレバーCOMPを抜き取れません。



- 3 フラットスクリューを外し、クラッチリフタープレート、リフターセッティングプレートを取り外します。



- 4 取り外した部品を袋等に入れ保管します。  
汚れ、古くなったグリスを拭き取ります。



### ( 取 り 付 け )

#### ⚠ 注意

トルクレンチを用意し規定トルクを必ず守る事!!

- 1 レリースブラインドプラグのOリングがついていることを確認し、リリースブラインドプラグのフラット面からクラッチレバーCOMPの入っていた穴に入れてクラッチレバースTOPパーピンで止めます。
- 2 ハイドロリッククラッチカバーにクラッチリリーススプリングの大径部側から入れ、クラッチリリースピストンの穴の開いた方からハイドロリッククラッチカバーにはめ込みます。  
ピストンシール、ハイドロリッククラッチカバーのシリンダー内側にブレーキフルードもしくはラバーグリスを必ず塗布して下さい。



- 3 ハイドロリッククラッチカバーにガスケットを入れRクランクケースカバーにしっかりとめ込みソケットキャップスクリューで仮締めし、指定トルクで締め付けます。  
 $T = 5 \text{ N} \cdot \text{m} (0.5 \text{ kgf} \cdot \text{m})$
- 4 Lマスターシリンダーをハンドルにソケットキャップスクリューで取り付け、指定トルクで締め付けます。  
 $T = 10 \text{ N} \cdot \text{m} (1.0 \text{ kgf} \cdot \text{m})$
- 5 ハイドロリッククラッチカバーのザグリ部分にシーリングワッシャ、オイルホースエンドのバンジョー部分、シーリングワッシャの順に置きエアフリーバンジョーボルトを手で仮締めし、オイルホースをLマスターシリンダーまで取り回し、シーリングワッシャ、オイルホースエンドのバンジョー部分、シーリングワッシャの順にバンジョーボルトで取り付けます。位置が決まれば、バンジョーボルトを指定トルクで締め付けます。  
 $T = 13.5 \text{ N} \cdot \text{m} (1.4 \text{ kgf} \cdot \text{m})$
- 6 エアフリーバンジョーボルトにブリーダーキャップを取り付けたブリーダースクリューを取り付けます。  
 $T = 5 \text{ N} \cdot \text{m} (0.5 \text{ kgf} \cdot \text{m})$



### ( クラッチ液の注入 )

- 1 Lマスターシリンダーのリザーバキャップを取り外し、ブリーダースクリュー、バンジョーボルトが締め付けられていることを確認し、Lマスターシリンダーのリザーバの上レベルまでクラッチ液を注入し、クラッチレバーを操作し、クラッチシステム内にクラッチ液を満たす。  
この操作をリザーバ内のプライマリポートから気泡が出なくなるまで(クラッチレバーに重みを感じるまで)行う。  
化学変化を防止するため、異なった銘柄の液を混入させないこと。  
クラッチ液は、塗装面を損傷させるので部品類に付着させないこと。
- 2 ブリーダースクリューにビニールチューブを取り付け、クラッチレバー先端がハンドルグリップに当たるまで握り、ブリーダースクリューを約1/2回転締め、再び締める。クラッチレバーをゆっくり放し、完全に戻ったらそのまま数秒間放置する。ビニールチューブから気泡が出なくなるまでこの操作を繰り返します。  
リザーバからエアが入らないように、クラッチ液の液面を点検しながら行うこと。
- 3 エア抜きが終了したら、クラッチ液をリザーバの上レベルまで補給し、ダイヤフラム、リザーバキャップを取り付けます。ブリーダースクリューの締め付けトルクを確認します。

⚠ 注意：エア抜きが完全でないと、エンジンが高温になってくるとクラッチが切れなくなる可能性があります。

### ( 組 み 付 け 後 )

- 1 エンジン停止状態でトランスミッションを1速にシフトしクラッチレバーを握ります。車両を動かした際リアホイールが回転しクラッチレバーを放した状態でリアホイールが回転しないことを確認して下さい。
- 2 トランスミッションがニュートラル状態でエンジンを始動し、各部のオイル漏れを点検します。異常が無ければ安全な場所で低速の走行テストを行いクラッチの作動を確認して下さい。

株式会社 SPECIAL PARTS 武川

〒584-0069 大阪府富田林市錦織東三丁目5番16号  
TEL 0721 25 1357 FAX 0721-24-5059  
お問い合わせ専用ダイヤル 0721 25 8857  
URL <http://www.takegawa.co.jp>